

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を着実に実施することで、主体的に学習に取り組む態度を育成し、探究力を育む。 ・指導と評価の一体化の視点を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現を追求する。 ・ICTやAI等、新たな技術を取り入れ、新時代に対応できるDX人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領を適切に運用し、生徒一人ひとりの主体的な学習への態度と探究力を育む。 ②指導と評価の一体化を目指し組織的な授業改善に取り組む。 ③新たに導入されたICT機器を用い、生徒個々に応じた効果的な利用を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①発問・課題に対して協働して取り組み思考する授業、学びを主体的に深めるための授業への転換を図る。 ②研究授業の振り返りの際に各教科で形成的評価の実施状況について調査し実施率100%を目指す。 ③授業等において効果的なICTの利活用を追求し、利用率100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①発問・課題に協働して取り組み思考する授業、学びを主体的に深めるための授業を実施することができたか。 ②組織的な授業改善の取り組みとして、形成的評価の実施率100%を達成できたか。 ③授業等において効果的なICTの利用を実践し、1人1台端末を活用した授業実践100%を達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①研究授業や生徒による授業評価により、学びを主体的に深めるための授業改善を行うことができた。 ②③すべての教科において、教科の特性に応じた形でICTの利活用を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒による授業評価等の結果をもとに、授業改善について具体的な数値によって検証していく必要がある。 ②③教科単位で見ると、すべての教科でICTを活用した授業実践が行われているが、教科の中でも学年や授業時期によって差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「生徒による授業評価」は、生徒による意見表明の場という見地から必要であり。結果を分析し、改善に反映させていくことが重要である。また教科横断的な情報共有や指導法研究により、更なる充実した取り組みが期待される。 ②③ICTの利活用について、すべての教科において、教科の特性に応じた形で行われていることは評価できる。AI利用について生徒への指導も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①さらなる授業改善を進めていくために、具体的な数値から授業評価の内容を各教科で検証していく必要がある。 ②③形成的評価やICTの利活用について、すべての教科において、取り組み状況をもとにして改善をさらに進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業評価の内容をもとに、生徒の授業に対する具体的な要望を把握し授業改善に活かしていく。 ②③研究授業週間や日々の情報共有を通して、形成的評価とICT利活用について、より効果的な方法の検討に引き続き取り組んでいく。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・予防的な生活指導を実践しピア・サポートを浸透させる。 ・生徒一人ひとりの高い規範意識とコミュニケーション能力を育成する。 ・学校行事や部活動等を通じて、生徒の主体性・リーダーシップを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全職員の共通認識のもと、基本的な生活習慣の確立と交通安全などの規範意識の向上を図る。 ②子どもたちが抱えている課題を早期に発見し、課題解決に向けて適切な支援を行う。 ③学校行事や部活動、委員会活動において、生徒が主体となり行い、生徒のリーダーシップのもとマネジメントされた活動を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に向け、生徒一人ひとりの状況を把握した上での交通安全指導に日々取り組む。 ②サポートドックや各種アンケート、面談等を通し生徒一人ひとりの実態把握に努め、必要に応じSCやSSWと連携した支援を行う。 ③学校行事や部活動、委員会活動において、生徒自ら積極的に参加し、自らマネジメントできるように支援し、実践的な態度と主体性を伸ばさせる。 ④部活動への加入率90%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校全体で共通認識のもと、基本的な生活習慣の確立と交通安全指導を実施できたか。 ②生徒の状況に合わせ、迅速かつ適切な対応ができ、外部機関とも連携できたか。 ③学校行事や部活動、委員会活動において、生徒自らマネジメントした活動ができる場面を作ることができたか。 ④90%以上の部活動加入率を確保できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣の確立に向け、月ごとに生徒の実態に合わせた遅刻指導を実施した。ヘルメット着用など交通安全指導を実施した。 ②サポートドックなどのアンケートや担任との個人面談を活用し、困難を抱える生徒の早期発見に努めた。必要に応じてSCやSSWと連携し、適切な支援をすることができた。 ③生徒主体、生徒運営による学校行事を行うなかリーダーを育成し、リーダーのもと、生徒同士が協力し合いマネジメントできる環境を創った。また、その活動を通して生徒に実践力と責任感を学ばせ、成し遂げた時の達成感から自己肯定感を持たせた。 ④1年生部活動入部率は4月当初85%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校全体で共通認識を図るため、校内の指導規準等の見直しを継続していく。生徒の交通安全に対する意識の向上を図る。 ②外部機関との連携をより円滑にすすめるために、SC・SSW間での情報共有の場を定期的に設定していく。 ③生徒主体ではあるが、リーダーシップある生徒が少なく、また、グループでの協力体制も脆弱で、計画が進まないことがみられた。生徒の力を十二分に引き出すために生徒自らが行わなければならぬことや場面を増やす必要がある。 ④部活動に対して中学校で満足している生徒が多く、また、高校では校外活動に興味がある生徒もいる。部活動の魅力の発信をHPなどで行うなどして入部率90%を達成したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①継続的な指導・支援ができていることは評価できる。交通安全に対する生徒の意識向上について、自転車ヘルメットの着用について定着が進んでいることは評価できる。この取り組みが地域のモデルなることも意識し取り組みを支援することを期待する。 ②SNS等のトラブルについても、継続的な取り組みが期待される。 ③生徒の主体性を育てる取り組みが継続的にされていることは評価できる。 ④部活動入部率は高いが、短い期間での離部も多いとのことなので、部活動継続の意義を感じ取らせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣の確立に向け組織的に指導をおこなった。学校全体で更なる共通認識を図る。 ②困難を抱える生徒の早期発見に努めた。今後も必要に応じSCやSSWと連携し適切な支援をするとともに、より円滑な外部機関との連携が求められる。 ③各活動において、より生徒が主体的に活動することができるとともに、より円滑な外部機関との連携が求められる。 ④さらに部活動の魅力が発信していくとともに、活動を継続していく方策も検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内の指導規準等の見直しを継続していくことで、今後も学校全体で共通認識を図っていく。 ②生徒理解と情報共有を進め支援体制を強化していく。その他の外部機関との連携についても引き続き検討していく。 ③これまでの取り組みを振り返り、よりよい運営方法についての検討を進めていく。 ④部活動の魅力や、活動を継続していく意義を引き続き発信していきたい。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルビーイングの視点から、確かな目標を設定し、粘り強く進路実現を図る力を育成する。 ・3年間の体系的なキャリア教育計画を作成し、進路指導・支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ウェルビーイングの視点を基に、主体的に進路活動に取り組めるようキャリア諸能力の育成を図る。 ②生徒一人ひとりが将来への展望を持ち、希望する進路を実現できるよう系統的な進路指導・支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種進路ガイダンスや体験活動で蓄積したポートフォリオ等を通して、生徒が自己理解を深め、成長を実感できるよう支援する。 ②進路ガイダンス、職業講演会、インターンシップ等を活用し、上級学校や職業選択の際に参考となる情報や機会を提供する。また、インターンシップへの積極的な参加を呼びかけ、参加者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①主体的に進路活動やポートフォリオの作成に取り組むこと等により、自己肯定感や成長を実感することができたか。 ②生徒が希望する進路の実現に向けて各学年と綿密に連携し、模擬試験等のデータを活用しながら、適切な支援をすることができたか。インターンシップへの参加者が増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①行事等の振り返りを通して、達成できた点や改善点を把握し、自己の次への課題に取り組むことができた。 ②ガイダンス等を活用し進路活動を進めていく上で必要な情報を提供し、支援した。インターンシップでは、横浜北地区への参加者数は昨年を下回ったが、県の機関で行うものにも参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①これまでの振り返りを基に様々な視点から自己分析し、成長に繋がられるよう支援する。 ②多様化する入試制度の動向をしっかりと把握し、生徒の希望する進路実現に向けて、支援体制を強化できるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの興味・関心、将来への展望と進路が繋がるための指導がされていることは評価できる。 ②生徒の進路選択の上で、より具体的なシミュレーションができる情報提供を期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が、自らの考えをより深めるため、行事や模試等の振り返りの時間の確保についてさらに検討していく。 ②生徒が意欲的にキャリア学習に取り組む様子が見られた。生徒が希望する進路先について、意欲的にキャリア学習に取り組む姿勢が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①振り返りの時間を確保するとともに、内容について自己評価の機会を設定し、目標達成に向けた支援を継続する。 ②様々な選抜方法が増えている中で、進路実現に向けてその情報収集がより容易に行える支援体制を構築していく。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・シチズンシップ教育、主権者教育の充実を図る。 ・地域の様々な施設や産業との協働を通して、社会に貢献できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①関係機関と連携し、身近な教育資源の活用を推進する。 ②地域と連携し、生徒が自ら課題を見つけ主体的に社会に関わることのできる活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域貢献活動等を通し、関係機関との連携を図る。校内においても地歴・公民科等と連携し模擬投票などの主権者教育に努める。 ②地域と連携し生徒が主体的に社会に関わることのできる活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校運営協議会等での協議を活かし、身近な教育資源を有効活用ができたか。シチズンシップ、主権者教育を実施できたか。 ②地域と連携し、生徒が主体的に社会に関わることのできる活動を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①OB・OG講演会や地域貢献活動について、地域社会と連携した取り組みを進めることができた。 ②総合的な探究の時間において、鶴見区役所との連携によって生徒の主体的な活動を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒と地域との関わりをより深めていくために、引き続き活動するとともに、地域に貢献する活動に取り組んでいく。 ②今年度行った新たな取り組みについて、来年度の実施に向けた改善点を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域にも様々な考えを持った方がいるので、地域のニーズを把握する必要がある。 ②探究の時間での鶴見区役所との取り組みは素晴らしい取り組みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域との協働的な活動について、今年度の取組内容について振り返りを行い、改善点を見つけていく必要がある。 ②地域社会と連携し、生徒が主体的に活動に取り組むことができた。引き続き身近な教育資源について情報を取り入れていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続き身近な教育資源や地域の情報を積極的に取り入れ、地域と連携して活動すると共に、地域に貢献する活動に取り組んでいく。 ②生徒だけでなく教職員も含めて、地域と関わる機会を検討していく。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動についての情報発信を積極的に行い、本校の魅力の発信に努める。 ・事故・不祥事を根絶し、信頼される学校づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会やホームページの内容の充実を図り、本校についての情報発信を積極的に行う。 ②教員の働き方改革の推進を実行する。 ③成績処理や要録・調査書の作成における事故や不祥事の防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会や行事について、定期的なホームページの更新等を通して情報発信を行う。 ②時間外超過勤務月45時間以上の教員を減らす。 ③成績処理や要録・調査書の作成マニュアルを作成し適切な処理・作成法について周知すると共に、成績処理支援システムの円滑な利用を図る。不祥事防止研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①情報発信の場の工夫と適切な時期にホームページの更新等を行うことができたか。 ②時間外超過勤務月45時間以上の教員は減少したか。 ③成績処理や要録・調査書の作成における事故や不祥事を無くすことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①イベントごとに情報発信することができた。発信する内容も最新の情報に上書きし伝達することができた。 ③成績処理や要録・調査書の作成マニュアルを作成しその内容について周知するとともに、適切に処理・作成をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①閲覧している多くの人にわかりやすいように発信内容を工夫することができた。 ③処理・作成について今年度の留意点をまとめ、次年度以降の改善に繋げる。成績処理については、新しい採点システムを円滑に運用していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページについて、学校の目指すところをわかりやすく示すことに尽力していることは評価する。 ②充実した教育活動と働き方改革の両立は難しいがICTを効果的に活用し引き続き取り組んでほしい。 ③成績処理や要録作成など、マニュアル作成し運用されていることは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ホームページの更新を適切に行うことができた。引き続き積極的な発信を行っていききたい。 ②AIを活用した採点システムなどの利用により働き方改革の推進を目指した。 ③採点ソフトの活用とともに成績処理支援システムの円滑な利用を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校説明会の適切な開催時期や形態について検討し、実施する。 ②引き続き充実した教育活動と教員の働き方改革の両立を図る方策について検討していく。 ③研修会等を通して、引き続き様々な場面における事故・不祥事を起こさせない環境を構築していく。